

## 2024年を大きな政治転換の年に

臨時国会の終盤から自民党の「カネと政治」の問題が浮上し、とりわけ安倍派のパーティー券の裏金問題が明らかになりました。1000万円にも及ぶ裏金について松野前官房長官や高木前国対委員長などに対し東京地検の事情聴取も行われています。金権腐敗政治に終止符を打ち、まっとうな政治を取り戻すため、立憲民主党を軸に総選挙準備をしっかりと行い、2024年を大きな政治転換の年にすべく奮闘しましょう。

社会民主主義フォーラムは12月10日、第2回全国交流会を開催しました。交流会では「立憲民主党の目指す社会」をテーマに福山哲郎元幹事長から記念講演を受け、午後からは「党活動」と「政策活動」に分かれて分科会を行いました。今号では分科会の座長報告を紹介し、フォーラムの今後の課題を考えたいと思います（以下文責は編集者にあります）。

### 工夫した取り組みで展望を

#### 党活動分科会 宮城・田山英次



各県ごとに合流の経過や労働組合との関係も異なるので、うまくかみ合うか心配がありました。しかし共有できる課題も多いい交流会になりました。

立憲は国会議員が集まってできた政党ですので、議員後援会はありますが、ほぼ党組織というものはなく、参議院選挙でも総括として、党の足腰を強めてどう広げていくのかなど、文書の中には出てきますが実際にそういう取り組みが進んでいないのが実態だと思います。ただそういう中でも、合流して3年になりますので、各地域で様々な工夫や努力が積み上げられていると感じることができた交流会でした。

具体的な中身で言えば、例えば労働組合との関係では、茨城で労組立憲フォーラムという組織が立ち上がっております。これまで社民党時代には狭かった労働組合との関係が広がってJPとか私鉄、情報労連、運輸とかそういう人たちも含めた労組立憲フォーラムが立



ち上がってちょっと広めの運動に取り組まれているという報告がありました。

立憲の規約は、国会議員や候補者がいないと総支部は作れない仕組みになっています。宮城の例ですがある総支部では総支部長がいて300人近い党員がいましたが、総選挙で落選し次回はたたかわないということになりました。総支部長不在となって、一年単位の党員ですから、次の年にはゼロという現実です。

こういう仕組みの中で、どのように支部とか総支部、あるいは議員がいなくてもどう組織を作っていくかについては、大体みんなそういう立場に置かれています。そして各地で取り組まれており、とりわけ任意の支部作りの重要性は共通して言われたと思います。

社民党が分裂したとき先行して北海道は民主党に移りましたが、北海道では規約上に、行政支部だけでなく任意の支部を作ることができるときちんと位置付けられています。そういう取り組みが私たちにも必要ではないかと思いました。

また直接支部が難しいという議論の中、もっと今の時代に合わせて広げられる組織を作ろうと東京からの



報告がありました。つい先ごろ「りっけん新宿」という組織が作られたという報告です。これは立憲の支部ではなく、別の、立憲の政策を広げる政治団体で、財政的にも独立したものとして作られ、その他の政治団体に位置付けられているようですが、今その中で活動を始めているという報告です。

秋田からは労働組合の関係を広げ重視するという意味で、新しく労働組合や社民フォーラムのメンバーと一緒に「未来ネット秋田」が立ち上げられたという報告がありました。そこには個人会員とか、かつて離れていたJ Pや情報労連とかにも呼びかけ、もっと幅広いものを作ろうと努力がされているということでした。秋田はイージスアショアのたたかいがあり、結構幅広く実行委員会が作られて、そこで実行委員長をやられた方が今回の県議選で当選しました。そうした方が今回議員になって「未来ネット秋田」を担っているという報告でした。

ですから、いろいろ工夫すれば様々な取り組みが可能で、しかし上から指導されてできるのではなく、私たちが動けば、作ればできるということがこの3年間の中で実証されているのではないかと思います。私たちが頑張ろうとなれば、今後の展望を一定程度作っていけると感じました。それから要望で出されたことは、今オスプレイとかいろいろな政治課題がある時に社民フォーラムが音頭を取って交流する場が作れないかということです。ぜひご検討をお願いします。

## スケールメリットを活かして

### 政策活動分科会 東京・羽田圭二

政策を中心とした議論と交流がこの分科会の目的です。一つは立憲の今の政策に対する意見が出されました。対応も含めてどうなのか、これを第一番目に議論しました。第二番目に各自治体等で行われている政策立案、政策実現の努力やぶつかっている課題など、それらについてご意見を頂きました。

一番目の議論は消費税についてでした。経済対策の

中で各党から消費税についての言及があります。これについての対応がどうか、もう少し大きく言えば現在の税制度それから社会保障、これらを今後立憲民主党はどうしていくのかということでした。あるいは消費税で言うと地域段階ではいろいろ減税すべきだとか廃止すべきだとかさまざま意見がある中、私たち自身がどういう整理をしていくのかということも問われてきているということです。

今後の社会保障の在り方について、今後5年後10年後の将来像が示されていない。これは立憲民主党がどういう社会保障をめざし、それを支える税の在り方、財源の在り方をどうしていくのかということになります。ただここでは結論を出すという場ではありませんから皆さんからいろいろ意見を頂いたということです。そういう議論が前半に行われました。



関連して政策として不十分ではないかと触れられた点は、この間社民フォーラムとしても対応してきた福島の水処理の在り方についてです。立憲としての考え方は必ずしも我々の考え方と一致していないのではないかと指摘です。もう少し言えば、脱原発や反戦・平和運動などこれらについても現場での戸惑いや違いが出ていることが報告されました。これらの意見交換の中では、まとめとか見解という形で整理はしていませんが、党内でどのようにかみ合う議論にしていくかが求められていると思いました。

その上で二つ目の政策課題についてです。特に共通して言えるのは公共交通政策の課題について、特に島根や富山から報告がありました。JRや私鉄のバス等を含めて路線の廃止が多く地域の提案されてきています。その中で、公共交通を守ると言った場合、今まで通りの当該の企業、あるいは自治体レベルの努力だけで改善するということが極めて困難になっているということです。

我々は実はあまり立憲が何やっているかということには知らないで各自治体で政策の議論や取り組みをやっ

#### 立憲民主党 経済対策 「人からはじまる経済再生」

- 「人」を伸ばす **徹底した人への投資**
  - 学びなおし・リスキリング支援
  - 教育の無償化
  - 最低賃金1500円に増額
  - 非正規雇用の処遇格差是正
- 「産業」を伸ばす **グリーン・ライフ・ローカル・デジタル**
  - 再エネ発電の割合を2030年に50%、50年に100%に
  - 省エネ・再エネへの大規模投資で年間250万人の雇用創出
  - 創業・バイオ・ゲノム医療分野の大規模かつ中長期的・計画的な推進
  - 農業・観光・自然エネで豊かな地域経済の基盤整備
- 「消費」を伸ばす **セーフティネットの整備／フェアな分配・再分配**
  - ベーシックサービスの質・量の充実
  - 所得税や相続税等の累進性の強化
  - 消費税は軽減税率を廃止、給付付き税額控除を導入

ていることが多いのですが、立憲の中では公共交通を守るために専門チームを作って取り組みがされているという報告もされました。公立病院の廃止統合の課題も同様で、これについて一定程度立憲の中で国会レベルでの意見書の提案なども行われてきたことも報告されました。中央での取り組みと地域で抱える課題とを結びつけて考えていくことが必要だと思いました。

それから子ども政策です。子供医療費の無償化について全国的に議論になっています。立憲の中でも、これは政令指定都市の議員からの要請に限られていたかもしれませんが、この要請を受け全国的に政策展開をしていく必要があると確認、強調されています。そして医療費だけでなく子供の成長発達に欠かせない費用は親の負担、家庭の負担から社会全体で見ていくことが改めて問われているのではないかと感じました。

### 今年の国会における 衆・参 憲法審査会の状況

【衆議院】	【参議院】
<通常国会> ・ 16回 開催 ・ 議論の中心は緊急事態条項 特に、 参議院の緊急集会、 衆議院議員の任期延長	<通常国会> ・ 8回 開催 ・ 主に、 参院議員選挙区の合区問題、 参議院の緊急集会について、 議論
<臨時国会> ・ 5回 開催 ・ 緊急事態条項や 国民投票広報協議会について 意見。 ・ 自民が改憲条文案を作成する 作業機関の来年の通常国会で の設置を提案。維・国は賛同	<臨時国会> ・ 2回 開催 ・ 自民から改憲条文を検討する 作業部会の設置の提案

最後ですが、政策提案については立憲民主党になってより広く行っていけるという条件も生まれています。こうした条件を活かしながら取り組んでいく必要があります。そして衆議院議員選挙に向けては、野党共闘、候補者の一本化などこうした方向をしっかりと堅持していくことが必要だと指摘されました。

## 又市征治さん お疲れ様でした 故人を偲び「お別れの会」が開かれる



12月16日（土）午後0時から「又市征治さんお別れの会」が東京・ルポール麹町で営まれました。会は立憲民主党・泉健太代表、村山富市・元総理をはじめ7人の呼びかけ人によって開かれたもので、各政党や国会議員・自治体議員、自治労をはじめ多くの労働組合、関係者など全国からおよそ200人が参列し故人を偲びました。

阿部浩子東京・港区議会議員の司会で始まり、呼びかけ人を代表して吉田忠智・社民フォーラム代表、前参議院議員から挨拶を受け、「又市征治の軌跡」としてまとめられたDVDが上映された後、参加者全員が故人に黙祷をささげました。

吉田代表は挨拶の中で、自治労富山県本部時代の

又市さんを振り返り、春闘期の1万人集会でのリーダーシップと団結力が印象に残ったと語りました。また参議院時代に特別会計からの繰り入れを実現し、「決算の参議院」と言われる今日の参議院を作ったことは又市さんの大きな功績だと述べました。そして野党共闘や立憲民主党への合流に向けた決断など、又市さんの努力の上に現在の私たちがあるとして、まだまだ道半ばであり意思をしっかり引き継いでいくと締めくくりました。

続いて呼びかけ人をはじめ故人ととりわけ親交の深かった泉健太・立憲民主党代表（4面に掲載）、石上千博・自治労中央執行委員長、藤本泰成・平和フォーラム共同代表、石黒博・自治労富山県本部顧問、枝野幸男・立憲民主党前代表の5人の方々から弔辞が読み上げられました。

その後弔電・メッセージが披露され、故人の長男である又市秀治さんから遺族を代表してご挨拶を受け、参列者による献花が行われました。会場には故人の生い立ちや労組役員当時の写真、参院議員時代のパネルが飾られ、多くの参列者の思いを馳せる姿が見られました。終了後「又市征治さんを語る会」が開かれ130人が参加。様々なエピソードの紹介とともに故人の思い出が語りあわれました。

## 弔辞 立憲民主党 代表 泉健太 衆議院議員

又市征治先生。本日先生を慕う多くの皆様が集まっております。改めてその偉大な歩みに心より敬意を表します。又市先生は私にとりましては、先ほど吉田忠智さんは先輩とおっしゃられましたが、私にとりましては政界における大先輩であり大重鎮であります。なにせ私が生まれた1974年の時点で、もうすでに自治労の富山県本部書記長をされておられました。もうその時に闘争、闘争、闘争、この連続であったと思います。仲間の先頭に立ち共に涙を流し、そして共に成果を勝ち取り、こうした取り組みを続けられ、そして政治家になっても戦い続けた先生に改めて深く敬意を表し哀悼の誠を捧げます。



私は2009年に発足した鳩山内閣において内閣府大臣政務官を拝命し行政刷新会議を担当させていただきました。まさにその時にも連立与党の副党首であった又市先生にご指導いただき、特別会計の仕組みや剰余金の実態を教えていただきました。そしてこの行政刷新の改革の切り口も教えていただきました。当時驚いたのは先ほども映像にございましたが、塩川正十郎財務大臣の時から又市先生が特別会計の剰余金について追及をされ数兆円単位の一般会計への繰り入れが実現した事実、これを伺った時でありました。鋭い着眼点とそして嚙んだら離さない、スッポンのような執念に、野党議員であっても大きな財政を動かす、そんな先輩、仕事士ここにありと思わせていただきました。



また又市先生は小異を残して大同に着く、自民党に漁夫の利を与えないその思いで、市民や各党のパイプを強化されました。まさに野党の要石でございました。又市先生はその流れの中で大局を見すえつつ、立憲民主党への合流をご決断いただきました。そのご決断によって吉田忠智前参議院議員や吉川はじめ衆議院議員そして全国の自治体議員、党職員、党員活動家の皆様と仲間となることができました。富山においては私の大学の後輩でもある山登志浩さんを発掘し、育てていただいてまいりました。

今まさに自民党の金権政治の象徴、派閥パーティーの巨額裏金問題が自民党を揺るがしております。又市先生ならいの一歩に批判の声を上げ、怒りの訴えを繰り広げていることでしょうか。立憲民主党はこの自民党派閥の裏金問題調査チームを立ち上げました。この問題を又市先生のような執着心を持って取り組んでまいります。又市先生、私たちはこれからも平和と民主主義、働く者の生活と権利を守る、その先生の意味を受け継いで政権交代に向かつてまいります。これからもどうか天上にて見守りください。

### ●●自治体選挙の結果●●

12月10日に投開票された茨城県・下妻市議会議員選挙では立憲民主党公認の斯波元気さん(現4)が当選を果たしました。来年も各地でたたかわれます。引き続き頑張りましょう。

裏金問題が連日報道されています。野党は法務大臣の辞任と閉会中審査を求め、引き続き2024年をたたかいます。本年もフォーラム通信をお読みいただきありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。